

4355 ロングライフホールディング

北村 政美 (キタムラ マサミ)

ロングライフホールディング株式会社 代表取締役副社長

企業理念を核に介護のネットワークを拡大

◆グループ体制

当社は持株会社として各グループ会社を管理している。ホーム介護事業は日本ロングライフ(株)、在宅介護事業はエルケア(株)、福祉用具販売レンタル事業はカシダス(株)、フード事業はロングライフダイニング(株)、調剤薬局事業はロングライフファーマシー(株)、教育研修事業はロングライフ・カシータ(株)がそれぞれ運営している。また、ロングライフ国際事業投資(株)および、新華錦(青島)長楽頤養服務有限公司[中国]、PT.Jababeka Longlife City[インドネシア]、(株)ロングライフグリーンケア[韓国]、チンタオチョウラクファミリーヨンビョウゲンコンスー青島長楽護理用品有限公司[中国]が、海外での介護サービス事業を中心に事業を展開している。

◆2014年10月期連結業績

売上高は109億74百万円(対前期比5.1%増)、営業利益は6億13百万円(同18.1%増)、経常利益は5億85百万円(同28.7%増)、当期純利益は2億90百万円(同44.5%増)となり増収増益を達成した。売上高については、上場以来連続で増収を更新している。営業利益・経常利益も右肩上がり推移し、収益率が向上したことで計画を上回る結果を出し、当期は過去最高益となった。

連結貸借対照表の主な増減について、資産の部は前期比5億18百万円増加して119億48百万円となった。総資産では流動資産が前期比8億84百万円増加した。要因は有料老人ホームの入居一時金収入の増加によるものである。

連結キャッシュフロー計算書について、営業キャッシュフローは12億28百万円の増加、投資キャッシュフローは1億33百万円の減少、財務キャッシュフローは5億28百万円の減少となった。この結果、現金および現金同等物の期末残高は16億57百万円と、前期末比5億66百万円の増加となった。

◆セグメント別業績

売上全体の構成は、日本ロングライフの有料老人ホーム運営によるホーム介護事業が36.4%、エルケアによる在宅介護事業が50.8%、カシダスの福祉用具販売レンタル事業が10.7%、ロングライフダイニングによるフード事業が0.3%、その他事業が1.8%という内訳になっている。

現在、売上全体の約半分を在宅介護事業が占め、ホーム介護事業が約4割を占めている。全てのセグメント別売上高が前期比増収となっている。

ホーム介護事業は現在、大阪・兵庫・京都・東京・神奈川の5都府県で事業を展開している。当期末時点の居室総数は807室である。ホーム介護事業の売上高は40億5百万円(前期比2.9%増)、セグメント利益は2億93百万円(同69.7%増)である。ホーム介護事業においては、一昨年12月と昨年5月にオープンしたロングライフ芦屋別邸苦楽園とロングライフ京都嵐山の入居が順調に進んだことが、増収増益の大きな要因である。現在入居率は前期70.2%から73.2%に増加した。

在宅介護事業は、売上高 55 億 78 百万円(同 4.0%増)、セグメント利益は 1 億 50 百万円(同 164.8%増)と、グループ全体の収益改善を牽引した。現在、在宅介護事業は 147 サービスを展開している。年初にエルケアとエルケア東日本という千葉県を中心とした在宅介護事業を合併したことによって、システム統一などの効率化を推進できたことが増収の大きな要因のひとつとなった。現在、エルケアでは、訪問入浴、ケアプラン、訪問介護、小規模多機能居宅介護、デイサービス、訪問看護という介護保険の中に含まれている 6 つのサービスを行う他、介護保険適用外の自由契約で独自の生活サポートサービス「もも倶楽部」の提供や訪問マッサージ、訪問歯科、障がい福祉、訪問服薬などを展開している。このように一人の顧客に多様なサービスを展開することにより、顧客の囲い込みと一人当たりの単価を上げて効率的な運営ができるような仕組みとなっている。

福祉用具事業の売上高は 12 億 26 百万円(同 12.0%増)、セグメント利益 66 百万円(同 139.7%増)となった。本年経産省を始め、今後の高齢化に対応して「ロボット」というキーワードを頻繁に見聞きする中で、当社もロボットマーケティング室という部署をカシダス(株)に設置した。各メーカーおよび大学研究室と連携しながら新商品の発掘などを行っている。一例としては、東京理科大学で開発されたマッスルスーツを実際に当社現場で試験するなど、データ作りに協力している。今後の介護業界における介護用品の目玉となっていくロボット分野については、当社も専門的な立場としてメーカーや大学と、介護現場をつなぐ役目を担っていきたい。また、営業拠点の新規出店、エリア拡大(大阪・兵庫・東京・神奈川)、海外(インドネシア・韓国)販売拠点の拡充を図る。

青島長楽護理用品有限公司[中国]においては、当社の日本での紙おむつ等のノウハウを用いた自社ブランド「夢心地(ゆめごち)」商品の販売を開始した。商品は、紙オムツから特殊浴槽まで多岐にわたる。

◆今後の取り組み

ホーム介護事業においては、平成 27 年 11 月オープン予定の「ロングライフ阿倍野」が建設着工中した。大阪阿倍野区の商業施設「あべのハルカス」の近くにあり、環境の良い住宅街に位置する老人ホームである。住宅型の有料老人ホームとして、全 70 室で運営する計画である。当事業では、GFC(グッドフィーリングコーディネーター)のシステムを当初より導入し、その基本的な考え方は『心地良い空間と文化的背景、高度な身体ケアの 3 つの要素がうまく融合したときに顧客満足が生まれる』というものである。ハードとソフト、そして身体介護のいずれも欠かすことができないというメッセージを含んでいる。ソフト面では、新たにオルゴール療法、フランスで考案された認知症ケアの方法であるユマニチュードケアの導入、七田式高齢者能力開発、また、スウェーデンで発案された肌を直接さすることにより心を安らげる方法のタクティールタッチ、音楽療法など、当社の理念『心が動けば体が動く』を実践していく中で、さまざまな新しいソフトを積極的に導入している。これが他社との大きな差別化につながっていくと考える。

在宅介護事業では、当期の出店計画を新規出店 18 箇所計画している。また、当社が中心となって各地域の小規模事業者をリードしながら連携を図っていく形で、LC ネットワークを構築する。平成 27 年 4 月からの介護保険改定・改正と日本の財政を考えると、介護報酬が今後とも厳しい状況は変わらないと見られる。したがって、現在の介護保険の流れの中では、サービス提供責任者一人あたりのカバー人員増加など規制緩和にうまく対応しながら効率的な運営をしていく事業者が生き残っていくであろうと考える。また、より厚く人材が配置できている事業者には加算を、一方、それに満たない事業者には減算していくという今回の介護報酬の改定を見ても明らかのように、介護業界は淘汰・再編が進んでいくであろう。したがって、介護報酬が厳しくなるほど、小規模事業者は経営が成り立たなくなり、規模の大きいところが生き残る業界に変わっていくことが予想される。しかし、中小の事業者が今までできなかった社員教育や介護保険請求などを当社が支援することで、当社のネットワークも広がっていくと考えている。こうした中で、少額の加盟金とロイヤリティを当社が受け取る仕組みの LC ネットワークを今期からスタートさせ、加盟店 80 社を目指す計画である。また、当社がこれまで参入していなかった複合型ショートステイ事業に今期から参入する予定である。介護保険以外の分野で、障がい者介護が大きなウェイトを占めるようになってき

た。障がい者デイサービス・グループホームとショートステイを組み合わせた複合型の在宅介護の展開を今後、首都圏・関西エリアで出店していきたい。さらに、モバイルシステム「カナエルタッチ」の運用を開始した。ヘルパーにタブレット端末を携帯させることで現場でリアルタイム入力、ペーパーレスで勤怠管理や介護保険請求まで一連の流れででき、年間20百万円のコスト削減効果が期待できる。このシステムをLCネットワークにも連動させて更なる効率化を図っていきたい。

福祉用具事業については、今後も順調な成長イメージを描いている。海外進出、介護ロボット、シナジー、事業深化などにより、2017年10月期には売上高30億円達成を目指している。

調剤薬局事業は、店舗での調剤だけでなく在宅訪問管理指導の強化を行い、現在、5店舗で調剤薬局を運営している。この5拠点で関西エリアにある17有料老人ホームの入居者様の服薬管理は全てカバーし地域密着型の展開をしている。自社で調剤から配達、服薬指導まで行い、今後はエルケアの在宅顧客の服薬管理についても業務を拡大していく。

フード事業については、昨年、凍結含浸法という食材を凍結させて酵素を加えることにより、形を壊さずに舌の力で咀嚼できる新しい調理法を取り入れた。当社の一部ホームでもこの調理法を用いた食事を提供しており、摂食回復への新しい取り組みとして、積極的に普及させていきたい。

◆2015年10月期の業績予想

連結業績予想は、売上高119億円(前期比8.4%増)、営業利益6億90百万円(同12.4%増)、経常利益6億40百万円(同9.3%増)、当期純利益3億30百万円(同13.6%増)と引き続き増収増益を計画している。

株主配当については、当期は一株当たり5.50円の配当を行う。配当性向は20.1%である。2015年10月期は、6.50円の増配を計画している。

(平成26年12月19日・東京)

* 当日の説明会資料は以下のHPアドレスから見るができます。

http://www.longlife-holding.co.jp/ir/pdf/20141225_setsumei.pdf